

堤未果のショック・ドクトリン

6月7日に堤未果さんによる『100分 de 名著』から、ナオミ・クライン『ショック・ドクトリン』をすこし紹介した。100分 de 名著の番組も3回視聴した。あと1回だ。チリのクーデターなどの映像とともに、クラインの言葉が朗読され、問題にビジュアルに迫っている。

写真はたちまち7万部という堤さんの新刊である。表紙カバー裏から「ショック・ドクトリン」とはテロや大災害など、恐怖で国民が思考停止している最中に、為政者や巨大資本がどさくさ紛れに過激な政策を推し進める悪魔の手法のことである。日本でも大地震やコロナ禍という惨事の裏で、知らない間に個人情報や資産が奪われようとしている。パンデミックで空前の利益を得る製薬企業の手口、マイナンバーカード普及の先にある政府の思惑など……。強欲資本主義の巧妙な正体を見抜き、私たちの生命・財産を守る方法とは？ 滅びゆく日本の実態を看破する覚悟の一冊。



多くの人に読んでもらいたいので、本書をすこし紹介しよう。序章 9.11 と 3.11—私のショック・ドクトリンから。現在は、ナオミ・クラインがショック・ドクトリンを世に紹介した2007年当時よりさらに大掛かりなショック・ドクトリンが行われています。デジタル化が進み、情報による大衆操作が可能になったからです。そこで、本書のタイトルは『堤未果のショック・ドクトリン』としました。

「この国の宝、お互いさま精神の礎である、国民皆保険制度をどうか守ってくれ」あれから13年、父の遺言だったその宝ものにまで今、ショック・ドクトリンの魔の手が伸び、危機にさらされています。もはや、ぐずぐずしている時間はありません。マイナンバーに新型コロナパンデミック、そして脱炭素。まずはここ日本で仕掛けられている、3つのショックから見ていきましょう。

彼らが仕掛ける最大のわな、「恐怖」にのまれてはいけません。それに打ち勝つ最強ツールは、私たちの五感がちゃんと持っています。どんなにテクノロジーが進化しても、一番大切な人間性を失わないために、おかしいことをおかしいと言える自由が残されているうちに、私たちの手でこの強欲ゲームの流れを変えてしまいましょう。子どもたちや孫たちに、未来を自分の手で選び取る選択肢がある、尊い世界を手渡すために。

3つのショックが3章から分析されている。第1章マイナンバーという国民監視テクは7節で構成されている。1 コロナ禍が大チャンスだった 2 マイナ保険証はここが危ない 3 日本人が知らない世界のマイナンバー事情 4 個人情報がすべて紐づけられた先に 5 アナログからデジタルへ—危険もいっぱい 6 便利で快適なディストピアへようこそ 7 政府のやりたい放題を止める方法

(2023年6月26日)